

■三善康信 公家、鎌倉幕府の初代問注所執事。源頼朝に京都情報伝え、幕府創設で下向、制度固めに貢献した。
みよしやすのぶ
西行出家・・・1140＝ 明法家で太政官書記を世襲する中級貴族三善康光の子に生れる。_母は源頼朝の乳母の妹。
_祖先に三善清行がいる。

・・・・・・1149＝ 9歳： 院政期の不安定な政治の中、中立的な立場で重要な活動を担った父康光のもとに育ち、

保元の乱・・・1156＝16歳：

後白河院政始1158＝18歳： 平治の乱・・・1159＝19歳：_この年起きた平治の乱後、助命されて伊豆に流される頼朝を父康光が唯一人見送る。
・・・・・・1160＝20歳： 諸司に初任。

・・・・・・1162＝22歳： 二条天皇周辺の摂関家意向が反映された異例の人事で、中宮大夫属従五位下に叙せられ、
以後、_藤原摂関家のシンボル中宮育子に仕えるが、

源頼政内昇殿1166＝26歳：_政治体制が大きく転換し、摂関家凋落で、
清盛太政大臣1167＝27歳： 中宮は重病となり、
厳島神社・・・1168＝28歳：_平清盛覇権確立とともに、表舞台から引退。御在所高倉殿が二度も放火される。

平徳子入内・・・1171＝31歳： 再び、放火されるなどするうち、
・・・・・・1173＝33歳： 皇后が死去すると、止皇后宮属となり、以後、散位数年に及ぶ。

・・・・・・1176＝36歳： _この間も、頼朝に、母の関係で京都の近況を月三度報告していたが、

治承のケデタ 1179＝39歳： 典薬大夫在任の記事。この年、父康光が死去。
源氏一斉蜂起1180＝40歳：_使者を送って源氏追討の危機を知らせ、頼朝に挙兵の契機をつくる。康信は薙髪し法名を善信とする。
平清盛没・・・1181＝41歳：_遁世して入道となるが、蔵人方五位出納に任じられ、史大夫相当に復職。頼朝に平清盛死去を知らせる。
・・・・・・1182＝42歳： 戦の正当性主張するため伊勢神宮に奉獻する頼朝御願書草案を内密に作成し届ける。
_後白河法皇の腹心となって恩顧を受け、吉田経房からも信任され、
・・・・・・1184＝44歳：_法皇の施策実現に向け、頼朝の招きで鎌倉に下向し25年ぶりに対面、武家政権補佐し問注所事務に当る。
平氏滅亡・・・1185＝45歳：_京下向官人に赴任したと考えられ、朝武間の取次を通じて平和国家実現に寄与。頼朝の戦勝恩賞業務に邁進する一方、自らは官位や褒賞に執着しない態度で周辺公卿らに感銘を与える。
藤原秀衡没・・・1187＝47歳：_義経追討で下された院文を起草。奥州征伐では唯一人鎌倉留守役を命じられるほど信頼され、

奥州藤原滅亡1189＝49歳：

鎌倉幕府始・・・1192＝52歳：_後白河法皇が死去して以降も、後白河法皇・吉田経房の意向を守り続け、幕府政治機構の整備で、初代問注所執事に任じられ、京下り官人の実務能力を重用されて大江広元とともに幕政の中核を担う。
・・・・・・1194＝54歳：

建久7年政変 1196＝56歳： 高野山領備後国地頭職に補任される。

源頼朝没・・・1199＝59歳：_頼朝の死去後も問注所執事のままで、第二代將軍源頼家が諸国の囚縛を徴する無謀を諫言してやめさせ、また頼家の専制にかわる御家人十三名の合議制に積極的に加わった。

執権政治始・・・1203＝63歳：

・・・・・・1208＝68歳： 鎌倉大火で名越家が焼失し、文書等灰燼に帰して茫然自失となる。

方丈記・・・1212＝72歳：
北条頼朝確立1213＝73歳：

武家社会の秩序安定に実績をあげ、

承久の乱・・・1221＝81歳：_承久の乱の際、病をおして会議に出て即時出撃を主張後、子康俊に問注所執事の職を譲り、没した。
以後、子孫がその職を世襲。